

よみがえれ 日本橋



⑥

竿先(さき)にブルブルと確かな手
応えを感じて夢中で引き揚げ
た。ハゼだった。体長約10センチ。
2007年11月、川の浄化に
取り組む約20人に乗せた船は
歓声に包まれた。「日本橋川
に魚が戻る日が来るなんて。
日本橋のたもとで、永森昭紀
(68)は「ずっとこの川に住み
続けてくれよ」と言っ、ハ
ゼを川に戻した。

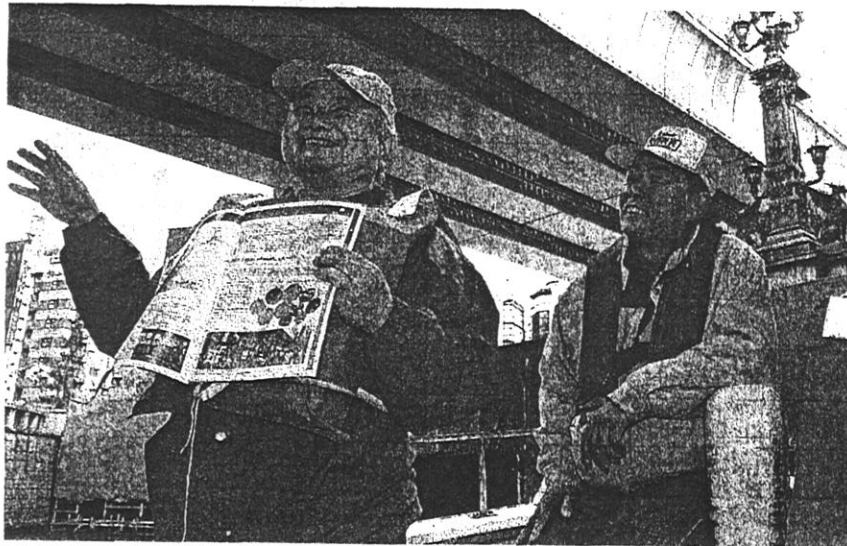


生活排水が泡立ち、メタン
臭が鼻を突く。三越に就職し、
日本橋本店に配属された19
61年、日本橋川は「ドブ川」
だった。神田川から分かれ、
隅田川に合流する全長約4・
8キロ。切り立った護岸は「カ
ミソリ堤防」と呼ばれた。目
を背けたのは人だけではない。
川沿いに立ち並ぶビルも
背を向けている。

「橋がきれいになるのは結
構ですが、使った洗剤が隅田

いつか子供が泳ぐ姿を

日本橋川の浄化に取り組み
永森 昭紀さん



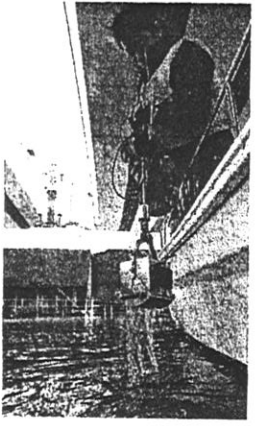
①船上で「日本橋川に生き物が戻ってきました」と説明する比嘉名誉教授(左)と、永森さん。後ろは洗浄作業中の日本橋(昨年11月14日)＝飯島啓太撮影
②名橋「日本橋」保存会は水質調査を続けている

川や東京湾に流れ込んでしま
うのが残念ですね」。20年ほ
ど前、「名橋『日本橋』保存
会」に一本の電話がかかって
きた。夏の風物詩となった「橋
洗い」で工業用洗剤をテック
ブラシで泡立てて洗い流して
いた。
「化学物質や合成添加物は
未使用」と銘打った洗剤があ
ることを知ったのは2005
年、大阪市の堂島川に架かる
「水晶橋」を洗う「なにわ橋
洗い」に参加した時だった。
製造業者は、深刻な公害を
克服した北九州市にあった。
「自社の合成洗剤が原因で手
の湿疹に悩まされたから無添

加しこだわった」。連絡をと
った当時の社長はそう話し
た。使っていたのは、琉球大
名誉教授の比嘉照夫(69)が開
発した「EM菌」(有用微生
物群)。光合成細菌や乳酸菌、
酵母など数十種の微生物から
なる。
ヘドロや悪臭を減らす効果
があるとされ、水質改善に取
り組む多くの自治体が導入し
ていることもわかった。



「日本橋川がきれいになれ
ば街も輝く。皆が誇りに思え
る川を取り戻そう」。永森が
事務局長を務める保存会は06
年、EM菌の培養設備を川沿
いに設置し、清掃活動と並行
して週8〜10トンの「EM活性
液を川に流すようになった。
東京都心の川は大雨が降る
と汚れる。汚水と雨水が一本



の下水管を流れる合流式が
多く、管の許容量を超えた分
は処分場に行き着く前に川に
流れる構造になっているため
だ。都下水道局は管を太くす
るなどの対策を進めている。
市民一体の努力の成果もあ
り、保存会の水質調査では、
かつて約1メートル下流のヘ
ドロは10〜15センチまで減少し、
生き物を育む砂地も現れた。
晴天が続けば、水深約2メートル
の川底が見え、環境省が海水浴
場の水質基準としている大腸
菌数も「不適」ではなく「可
」と判定される日が増えた。
「カニやエビが増え、渡り
鳥のキンクロハジロがついば
んでいる」。昨年11月、船上
で説明する比嘉の前で20年ほ
どのボラがはねた。スズキも
姿を見せる。週3回の清掃を
担当する都建設局の清水利浩
(45)も「この数年できれいにな
った」と証言する。
江戸時代の絵巻「庶代勝
覧」には日本橋川で泳ぐ子供
が描かれている。その姿を再
現することが、永森の次の夢
だ。「一番最初に飛び込むっ
て決めてるんだ」(敬称略)

あすの天気	1月8日 (土曜日)
通日	8
旧12月5日	<仏滅>
月齢	3.7
(正月)	
日入	6:51
日没	16:44
日出	8:53
月入	20:30
＝東京標準＝	7:31
満潮	18:36
干潮	0:55
(中潮)	13:13